

3 各グループ報告

3.1 図書館管理グループ（旧図書館庶務課・整理課）

新しいグループ制の導入により、旧図書館庶務課と整理課が統合された。この結果、図書館全般の予算管理、契約、渉外等の庶務業務、経理業務、図書受入・整理業務、雑誌業務、システム関連業務など、そして中央図書館部分の資料発注業務を含め、図書館の管理運営業務の大部分を1グループで担当することになった。

3.1.1 補助金取得

2007年度は2006年度と同等の補助金獲得を目指し、積極的に申請を行った。内示額レベルでは、2007年以上の補助金を確保している。

新規の補助金項目としては、資料貸出機会の増加と学生の読書促進のための重複資料購入およびシラバス掲載資料の重点購入のための補助金を獲得できた。これに加えて、高額資料「Botticelli(illustration):Dante Alighieri. La Comedia」の購入に関わる経費補助を受けることができた。

3.1.2 2008年度除籍について

2008年度の除籍は2回実施した。第1回(2009年1月20日)は8,548冊(和漢書6,091冊,洋書2,457冊),第2回(2009年3月16日)は5,268冊(和漢書3,665冊,洋書1,603冊)の除籍を行った。なお、原簿の除籍印の押印については、第1回分,第2回分ともに明大サポートに業務委託をし、2009年3月にまとめて処理を行った。

3.1.3 博物館図書室の大規模遡及について

博物館図書室の図書の遡及については2005年度から図書館が整理を担当してきた。新刊書の整理に加え、既存の図書の遡及を紀伊國屋書店への業務委託により実施してきたが、遡及作業の迅速化を目的として政策経費によって、2007年度・2008年度の2年間で遡及入力を一挙に行うこととなった。2008年度の図書の遡及冊数は9,056冊である。

図書の遡及作業が予定より早く終了したため、手付かずであった雑誌についても遡及計画を策定し、遡及入力を実施した。2008年度の雑誌の遡及冊数は10,004冊である。雑誌の遡及入力は2009年度で完了する予定である。

3.1.4 雑誌集中受入

雑誌受入・受入関連業務を2008年度から明大サポートに業務委託した。この業務は2007年度までは各館の雑誌担当職員が担ってきたが、事務機構改革による専任職員数減が図書館サービスの低下に直結しないよう、各図書館の人員を確保するために行われた。2008年度は、受入だけで35,235件の処理を行った。

3.1.5 中村拓旧蔵古地図コレクションの整理

2007年度特別予算で購入した中村拓旧蔵古地図コレクション(洋書280冊,和書441冊,古地図等169点,マイクロフィルム,パンフレット,抜き刷り,ノート等15点)の整理を開始した。平行して古地図資料のデジタル化も富士フィルムへ依頼し実施した。図書以外の資料については整理が難航した。整理仕様について蘆田文庫研究会と幾度も協議を重ねたが、年度内の整理完了ができず2009年度に持ち越すことになった。

3.1.6 時田ことわざコレクションの整理

ことわざ研究者として知られる時田昌端氏のことわざ関連の蔵書及び資料(皿,掛け軸等)等約2,000点の寄贈を受けた。資料についてはその後博物館で整理を行い、最終的には1冊の冊子体目録を刊行し、その後博物館展示室,中央図書館ギャラリーでことわざコレクションの展示やイベントを行うことが決まった。一般図書については業務委託により整理を完了したが、和装本の整理については未着手になった。年度末に追加の寄贈があったため、これと

一緒に 2009 年度に整理を行うこととした。

3.1.7 土屋哲先生旧蔵書の整理

2007 年度に寄贈された故土屋哲教授(政治経済学部)の旧蔵書の整理を業務委託により行った。故土屋哲教授は図書館の特色あるコレクションのひとつである「アフリカ文庫」の創設に携われ、アフリカ文庫選定委員としてアフリカ関連研究の発展に尽力された。旧蔵書の大半が「アフリカ文庫」として整理され、総数 1,517 冊に及ぶ。

3.1.8 新学部・新研究科設置図書費及び学習用複本購入図書費

国際日本学部、情報コミュニケーション研究科、教養デザイン研究科、理工学研究科新領域創造専攻の設置に伴い、2007 年度から 3 ヶ年計画で、それぞれの分野に関連する図書を購入した。また、2008 年度から 3 ヶ年計画で学習用複本購入図書費が政策経費として認められ、利用の多い文庫・新書類の買い替え、商学部教員推薦図書「知の森」の創設、バストリーダールの購入などに当てられた。

3.1.9 整理チーム業務の見直し

人事異動により洋書受入れ担当の専任職員が異動したが補充が行われなかった。そのため短期嘱託職員を含む整理チーム内の担当変えにとどまらず、整理業務委託範囲の再検討・調整を行い、業務フローの大幅な変更を行った。

3.1.10 システム関連業務

システム関連業務としては、図書館業務用のコンピュータ約 100 式のリプレースを行った。これに加え、新たなファイルサーバも設置し、業務遂行環境の整備を推進した。また、全館のセキュリティ強化と Suica 学生証の対応のため、各地区図書館に新たに入館ゲートを設置した。これにより、すべての図書館で Suica 学生証による入館が可能となり、利用者の利便性が大幅に向上した。また、利用者環境整備の一環として、中央図書館に貸出用ノートパソコン 35 式を増設し、これに合わせて自動貸出用 PC ボックスを増設した。

長年の懸案事項であった、利用者の資料配置先へのガイダンス機能の強化については、内部開発にて目録検索システムに配架マップ機能を追加して機能の強化を図った。資料の配架先を地図情報を使ってビジュアルに表現するこの仕組みによって、利用者はより容易に求めている資料にたどりつくことが可能となっている。

3.2 中央図書館グループ(旧総合サービス課)

中央図書館が開館して 8 年が過ぎた。2008 年度開館日数は 337 日であり、前年度のような休講措置がなかったので予定通り開館することができた。図書館利用に関して特筆すべきは図書館利用規程の改廃によるサービスの拡充があげられる。また利用者の要望を受けて改善した休日開館サービスの充実も忘れてはならない。

3.2.1 休日開館におけるサービスの拡充について

休日開館サービスはセルフサービスが基本である。しかしながら、入庫、配送受け取り、パソコン利用については係員の常駐を必要とするために実現することができなかった。これを改善するために年度の途中で予算措置をお願いして 11 月から業務委託で実施することができた。

3.2.2 レファレンスカウンターでの図書返却サービスの状況

2006 年 4 月に開館時間中は返却ポストを撤去した。その後、図書の返却が地下 2 階貸出しカウンターでは不便であるという指摘があり、1 階のレファレンスカウンターでの図書返却受け付けを開始した。しかしながら、2008 年度からレファレンスカウンター要員の削減で本来業務に支障が生じたため、図書返却ポストを使用制限つきで復活した。その結果、一部の図書はレファレンスカウンターでの返却を受けけるものの、大半は返却ポストまたは貸出しカウンターで

受け付けることとなった。

3.2.3 各種図書館ガイダンスの実施

館内フリーツアー、ゼミツアー、大学院・専門職大学院・法科大学院新入生ガイダンス、文学部3年次生ガイダンス、留学生ガイダンス、大学院生文献検索ガイダンス、情報検索講習会等を実施した。これらの参加者延べ人数は、合計2,933人であった。各種ガイダンス参加者は前年度比較で横ばいである。とりわけ各種講習会の参加者数が低迷している。

3.2.4 図書館活用法デジタルコンテンツ（明治大学100コンテンツプロジェクト）電子展示

昨年に引き続き国立情報学研究所主催のオープンハウスで6月5日、6日に「図書館活用法デジタルコンテンツ」電子展示を開催した。パソコンを用いて図書館活用法の授業内容の縮約版を公開した。

3.2.5 ギャラリー展示

中央図書館ギャラリーの展示は、「鶴田義行回顧展」（5月20日～6月25日）、「図書の文化史」（7月8日～9月30日）、「江戸文藝文庫展」（10月17日～11月18日、12月18日～2009年1月31日）、「ロバート・オウエン没後150年・ロバート・オウエン協会50周年展」（11月21日～12月12日）、「書物、その構造の美 伝統和本と現代日本のルリユール」（2009年3月6日～4月25日）を開催し、好評を博した。

3.2.6 多目的ホールの利用

通常は閲覧室として利用されている多目的ホールは、①図書館の蔵書とサービスを語る例会（6月20日、11月28日）②アフリカ文庫講演会（5月1日、10月30日）、③図書館職員合同研修会「特色GPによる他大学図書館調査報告会」（2009年2月27日）が開催された。その他に全学部統一入試の会場にも使用された。

3.2.7 書庫内書架横板付着錆びの除去および閲覧席の修理

前年度に引き続き横板の錆び除去を予定経費に計上して関係部署に依頼した。前年度並みの枚数の修繕を行ったが、引き続き修繕が必要である。閲覧席の椅子の経年劣化について、年度末に修繕依頼しているが、磨耗の進行が早いので対応に苦慮している。

3.2.8 大学主催環境展への参加

リバティタワー1階で開催された環境展期間（12月8日～12日）において、図書館が所蔵する環境問題に関する図書のリストを配布することにした。内容は今年度に本学教員が執筆した環境関係図書（34冊）の一覧リストであり、リスト作成と同時に当該図書を図書館入り口に展示した。

3.2.9 ローライブラリーの開館日の増加と法学研究科院生の利用手続きの簡素化

ローライブラリーの開館日の増加を前年度に引き続き行った。中央図書館が休館日であっても、休日開館時間と同様に10時から17時まで開館した。また年度末には法学研究科院生の入館手続きを法科大学院生と同様の方法（学生証の提示）として手続きの簡素化を図った。

3.2.10 入庫フリーの実施と安全対策

書庫内のセキュリティ対応として、夏季休暇中に書庫地下3階（洋書）に防犯カメラ3台を設置した。また定期的に見回りを行った結果、不測の事態は発生していない。

3.2.11 参考室書誌書庫本の移転作業

中央図書館1階参考室に「ゲスナー賞文庫」を設置することになった。これには排架スペースが必要であり、そのため既存の参考室開架書誌図書の書庫への移動が必要になった。しかしながら、地下1階書庫も満杯のため、参考室書誌書庫の図書を生田保存書庫へ移転す

る作業を開始することにした。資料の利用度・価値を見極めての抜き取り作業は業務委託には馴染まないため、専任職員の作業となった。抽出移転は数千冊に上るため、2009 年度も継続して行わなければならない。

3.2.12 投書の回答

新図書館オープン以来、投書箱を設置して利用者の声に耳を傾け、図書館サービスの改善に努めている。本年度は投書箱に 60 件の投書があり、昨年度比で 13 件減となった。その多くは、音に対するクレームであった。電卓・パソコンの指定エリア以外での使用、筆記音やエレベータ待ちでの談笑が主なものである。掲示にイラストを多用して効果的な注意喚起を試み、その成果を発揮したものと推測される。なお 2008 年 12 月からオンラインナレッジサービスを開始し、要望も受け付けるシステムが稼動した。要望の内容は全館対応が多いために、送信先を中央に絞り込んだ結果、2 件の回答データがあった。

3.3 和泉図書館グループ（旧和泉図書課）

3.3.1 図書館リテラシー教育活動

学部間共通総合講座「図書館活用法」は、教員、図書館各グループ職員により、和泉校舎では前期、後期あわせ 4 コマ開講している。これとあわせて図書館リテラシー教育の一環として、少人数授業を対象とした「ゼミツアー」を前期、後期とも実施している。ゼミツアーの内容は、館内ツアー、OPAC・各種データベース利用実習である。説明には大学図書館の特徴などの印象付けに重点を置いた。2008 年度は前期 131 クラス 2,273 名、後期 43 クラス 643 名が参加した。パソコンルームの改修により 2 クラス同時に実施が可能となったが、音モレがあるなど施設面の課題も残された。情報コミュニケーション学部の授業「専門情報リテラシー（法律）」に出張講義を依頼され実施した。出張講義については、大教室授業での実施が可能であるため、一度に多数の学生に対してリテラシー教育を実施できる。人員不足の課題もあるが、出張講義の可能性について検討する予定である。

3.3.2 新入生ガイダンス

大学の新入生ガイダンス期間に、各学部へ依頼して図書館利用案内の時間を設けた。2～30 分間の利用ガイダンスを実施し、1 年生全員を対象に利用案内を実施した。また、館内においては、従来のフリーツアーのほかに、新たな企画として「スタンプラリー」を実施した。学内部署から明大グッズをいただき景品に充てた。参加者はクイズを解きながら館内を自身で歩き、最後にレファレンスカウンターで景品を受け取る。1 年生のみならず 2 年生の参加もあり、参加者は皆楽しみながら館内を回っていた。図書館グッズを製作し景品とできないか検討し、今後も続けていく予定である。

3.3.3 入庫フリーの実施

2007 年度事業ですべての書庫内資料にバーコードおよび持ち出し防止磁気テープを装着した。これにより 4 月 1 日から書庫内資料の自動貸出機対応が可能になったばかりでなく、かばん等の持ち込みも可能となった。同じく 4 月 1 日から雑誌貸出が開始されており、利用者は雑誌書庫からバックナンバーを自身の手で借りることができるようになった。また、11 月 4 日からは入庫バッチも廃止し、利用者が開架閲覧室と同様に書庫を利用することが可能となった。

3.3.4 研究用メディア資料の購入選定基準作成

メディア資料（視聴覚資料）は各地区メディアライブラリー（教育の情報化推進本部主管、業務担当部署：教育支援部各メディアグループ）において購入し管理運用されている。しかし教育の情報化推進本部は「教育」に関わる予算しか持たないため研究用資料としてのメディア資料を購入することができなかった。このため教育の情報化推進本部から、研究用資料としてのメディア資料の購入を図書館で行えないかとの提案を受け、検討を進めてきた。研究

用メディア資料の購入選定基準を作成し、12月10日事務スタッフ会議で承認、1月20日教育の情報化推進本部拡大幹事会で了承、3月2日図書委員会で承認された。これによりこの基準に基づき2009年度から図書館予算で購入を開始する。なお、これにかかる予算は、200万円を限度に教育支援部から移管される予定である。

3.3.5 研究棟改修に伴う資料の移転

2007年度末に研究棟の改修工事が実施され、それに伴い図書館資料の移転作業が進められた。雑誌の移転については、2007年度からの継続検討として残された課題であった。検討の結果、資料室に置かれていた雑誌は全て図書館へ回収し、教員控室に置かれていた雑誌について教員へ希望アンケートを取った上で、研究棟改修後の棚のスペースに合わせてタイトルを選別することとなった。これにより、研究棟教員控室に残された雑誌は11誌となった。この結果については、7月16日開催の和泉研究棟運営委員会で報告した。なお、今後は、図書館資料は全て図書館内へ配置することを基本とする方向で検討を進める。

3.3.6 杉並区図書館ネットワーク

杉並区立図書館、明治大学、女子美術大学、高千穂大学、東京立正短期大学、立教女学院短期大学の参加による杉並区図書館ネットワークにおいて、杉並区民、および参加大学図書館への開放（閲覧・貸出）を実施している。また、同ネットワークの企画事業として講演会『源氏物語千年〜どう読まれてきたか〜』（講師：渋谷栄一高千穂大学経営学部教授）を10月4日に高千穂大学図書館で開催した。さらに、昨年度に続き、1月20日に情報リテラシー講座（初級編）『あなたの“調べ物”解決しませんか？』（講師：女子美術大学杉並図書館員、杉並区立中央図書館職員／アシスタント：本学図書館員、立教女学院短期大学図書館員、高千穂大学図書館員、杉並区立図書館職員）を実施した。

3.3.7 BDS入館ゲート設置

生田図書館で利用していたBDS入館ゲートを8月18日移設した。これにより、入館者記録が自動で取れるだけでなく、無断利用者の入館ができなくなった。

3.3.8 館内サインの改善

書架側面の配架サイン、閲覧室やカウンターなどの案内版を手作りで作成し差し替えた。全体的に色調を統一し見やすくした。書架の配架サインは、十進分類に合わせ色を変えて視覚的に印象に残るように改善した。この試みは、新図書館のサイン計画にも活かしていく予定である。

3.3.9 シラバス掲載図書運用の改善

例年シラバスに掲載されている参考図書を図書館に設置しているが、配架までに半年も要しており、シラバス本としての機能が活かされていないことが課題であった。今年度は、課題を解決するためにシラバス本運用を全体的に見直すこととなった。迅速提供を第一の目的として各地区発注担当者と打合せを行った。その結果、これまで行ってきた様々な条件での重複調査を廃止し、シラバス掲載の参考図書は全て購入することとなった。これにより複本が多数発生し、書架スペースの課題はあるものの、次年度から迅速提供が可能となる。

3.3.10 その他

例年実施している『図書館講演会「著者と語る」』は、事務機構改編による人員削減により、準備計画を十分できないため昨年度に続き今年度の開催を見送った。

3.4 生田図書館グループ（旧生田図書課）

前年度に行われた施設・設備の大幅更新や新設、および今年度も続けられた各種工事により、外観こそ以前からの建物ではあるが、生まれ変わった図書館を基盤とした活動があった。内面では情報リテラシー教育の充実を中心に、いっそう生田キャンパスの教育・研究環境の向上

を目指した様々な取り組みが実施された。

3.4.1 各種改善工事

①身障者用リフトの設置

当館は、第一開架閲覧室に人文社会系図書及び理学系図書を配架しているがその位置が2階からさらに上ったフロアにあるため、車椅子使用者が該当階の資料を直接ブラウジングすることができなかった。これを解消するために車椅子ごと上階への行き来が可能なリフトが設置された。

②壁面補修工事

建物の老朽化や耐震強度の問題から、夏季と春季休暇の2回に分けて生田図書館全体の壁面補修工事が行われた。特に旧館側は震度6程度の地震でも壁面が崩壊し落下する危険性が指摘されたため、殆どの壁に穴を開け、内部に接着剤を注入する作業が行われた。工事期間中は館内の半分を閉鎖し、工事エリアの図書はスタッフが出納を行うなどして対応した。結果として建物の安全性が向上するとともに従来のグレーの色調からアイボリーに塗り替えられたため、明るく清潔感のある館内に生まれ変わった。

③3連複式書架2台の移設

旧明高中図書館の書架を運搬してもらい、参考図書の書架として増設した。配架調整に伴い不足した書架の補充用となった。

④トイレ改修工事(新館側)

2007年度に引き続き、今年度は新館側1階と2階のトイレ改修工事が行われた。昨年度までは各階に男子と女子トイレがあったが、便器の数が少ない上、暗くて狭かった。その為、1階を男子、2階を女子専用にし、従来の男女の仕切り壁を取り払うプランを依頼。その結果、各トイレとも窓に面した広々とした明るいトイレになった。また、女子トイレではパウダースペースが設けられるなど、利用者の使いやすさが大幅に向上した。

⑤入館ゲートの増設

Suica 学生証導入に伴う新入館ゲート導入の際、従来の1台から2台へ増設。入館ゲート付近で利用者が渋滞する事態が解消された。

⑥省エネ照明器具更新工事

生田校舎で取り組んでいる省エネ照明器具更新工事の対象の一部に、今年度は生田図書館第一開架閲覧室とB1書庫が選ばれ、夏季休暇中に工事が行われた。

⑦B2保存庫連絡通路漏水箇所改修工事

集中豪雨に見舞われると、地中から染み出した水が通路一面に溢れ出す事態が続いたため、8月に改修工事が行われた。

3.4.2 展示ギャラリー運用開始

展示ギャラリー(名称「Gallery ZERO」)は、5月12日から展示を開始した。2008年度は、9件の展示を行った。それらの内容は、次のとおりである。

i. オープニング企画展 Flowers: interactive pictures 5/12～6/6

ii. 図書館企画展 ル・コルビュジェ 直角の詩 6/10～6/19

iii. Homei Miyashita: Performances in absentia 6/20～7/3

iv. 「≠！」 7/8～7/30

v. 明大建築/計画・設計スタジオワークス展 8/2～9/28

vi. 黒川の自然と文化～農場予定地とその周辺～ 10/3～10/30

vii. 登戸研究所明治大学資料館プレ展示会 11/13～11/26

viii. ダンシング・ヴードゥー: ハイチを彩る精霊たち 12/1～1/14

ix. 明大建築/計画・設計スタジオワークス展 2009 WINTER 1/19～2/16

各展示とも学内機関・本学関係者からのもので、いずれも多くの入場者があり盛況であった。次年度の応募を2008年末に行った結果、6件の応募があり、ほぼ各期間が埋まるほど、研究

発表の場として当ギャラリーへの期待が高いことがうかがわれた。

3.4.3 情報リテラシー教育の充実

- ①ゼミツアーは 25 回行った。また農学部食料環境政策学科の「基礎ゼミ」に 6 回の出張講義を行った。
- ②情報検索利用講習会として、今年度フルアクセスで契約した Web of Science (WoS) を延べ 7 回, Scifinder Scholar を延べ 4 回実施した。
- ③図書館活用法の演習授業に大学院生のアシスタントを 4 名採用
- ④デジタルコンテンツの製作
「専門文献の探し方」(講義は平田さくら)と「レポート・論文の書き方」(講義は森本智之(理工学部教員養成型助手))について、業者による撮影が 2 月 12 日に生田図書館閲覧室で行われた。約一ヶ月後に図書館ホームページに掲載されるようになった。
- ⑤展示ギャラリーで展示の無い空き期間を利用して「レポート・論文の書き方」プレゼンテーションを実施。11 月 4 日と 11 月 7 日に各 50 分、講義は森本智之氏で行われた。2 回で 50 名の参加者があった。

3.4.4 学習用図書選書

- ①新領域創造専攻では、教員からの選書希望に基づき、収書方針からは縁遠かった現代アート関係の写真集を購入し配架した。
- ②複本購入予算の執行。教員に複本購入について希望アンケートを実施し、回答されたものを優先購入したほか、前年度の貸出回数が多い順にリストを作成し、5 回以上の貸出があったものについて絶版を除いて購入し、予算の 200 万円を執行した。
- ③理工学部学習用図書選書委員会が中心となって、学生時代に読んでほしい本をリストアップしてもらい、7 月にコーナーを設置した。

3.4.5 配架と配架調整

- ①企画展示:「今、世界では何が起きているか」
学生に世界の中の自分を意識してもらうための企画として、内外の新聞やメディアに取り上げられ世界全体に影響を与えた事件や事象について関連資料を新刊棚脇に配架した。次の 4 件の関連資料の展示を行い、利用者の動機付けをはかった。
 - i. アフガンのペシヤワール会関連資料
 - ii. ノーベル賞受賞者の著作
 - iii. オバマ新大統領関係図書
 - iv. 「食の安全」に関わる図書
- ②開架図書の配架調整
6 門の農学系図書, 8 門の語学系図書, 9 門の文学系図書の配架移動, および新書・文庫の配架調整を実施した。

3.4.6 修士論文の取り扱い

生田図書館に保管する理工学研究科・農学研究科の修士論文は、未公刊資料で閲覧等は本来著作者の許諾を必要とするとの解釈から、閲覧禁止としてきたが、この措置を利用者に徹底できにくい状況であることから、2009 年 1 月に顧問弁護士に法的解釈の調査を依頼した。その結果、両学部事務室で渡される修士論文提出要領に「3 冊提出してもらい、その 1 冊は生田図書館に保管」との文言等により、著作者から黙示的承諾を得たものと解釈できるという結論により、閲覧のみ許可に変更した。なお、次年度以降から閲覧等に関わる許諾を得るよう学部事務室を中心に依頼する予定である。

3.4.7 麻生区との地域連携を具体化

地域連携として、多摩区民への生田図書館開放を実現しているが、近隣の区へ拡大する計画の一環として麻生区との連携を推進中である。麻生区は、1982 年 7 月に多摩区から分区し

た(それ以前の 1972 年から 10 年間は,多摩区と同一の区域)。本学が取得した麻生区の黒川地区の農地は,2012 年から農業実習が開始の予定で,すでに,農地および周辺の生態系の調査・研究を農学部の倉本宣研究室が開始している。このように生田キャンパスとは関連性が高い地域であるので,次年度中に生田図書館の開放を中心とした連携をはかる予定である。